



2021年3月31日
日本ディベロップメンタルケア (DC) 研究会

2020年度 APIB (Assessment of Preterm Infants' Behavior : 早産児行動評価) トレーニングの開催・受講の報告

私達、日本ディベロップメンタルケア (DC) 研究会は、小さく生まれた赤ちゃんをご家族の医療や支援に関わる看護師等の専門職者への教育支援などを通して、小さく生まれた赤ちゃんをご家族の成長発達と親子の関係性の育むディベロップメンタルケアの思想と理論、技術を発展させ、新生児医療の改善と子どもたちをご家族の未来を築く活動を推進していきます。この度、「ちいさな命 応援プロジェクト」(ユニ・チャーム様企画)のご寄付を活用して、Joy Browne 先生(米国・コロラド大学)を講師に、オンラインによる APIB (Assessment of Preterm Infants' Behavior : 早産児行動評価) トレーニング(2月20・27日、3月20・27日の計4日間)を開催いたしました。APIBは、小さく生まれ赤ちゃんの神経行動の発達評価方法です。この評価方法を活用することで、赤ちゃんの発達状況がより良く把握でき、より適切な看護ケアや発達支援、育児支援が可能となります。受講の方々の感謝の言葉とトレーニングの成果をご報告申し上げます。

■ トレーニング受講者の感想 -----

● 今回開催された APIB のリモートトレーニングは、私自身にとって待ちに待ったトレーニングでした。2019年に初回のトレーニングを受講して自己課題を重ね、本来は2020年にトレーナーである Joy 先生がアメリカから来日し、直接トレーニングを受講できる予定でした。しかし、コロナ禍となり、リモートでのディスカッションを重ね、今回のリモートのトレーニングとなりました。自己の現在の進捗状況、手技やスコアリングに至る判断や考え方等の指導を受けることができました。そこで学んだ一番の大きなことは、APIBは、「赤ちゃんに“検査をする”のではなく、“赤ちゃんに問いかけ、赤ちゃん与会話して、一方的に進めるのではなく、赤ちゃんの答えを待つて進める”」でした。これは、NIDCAP (Newborn Individualized Developmental Care and Assessment Program: 新生児個別の評価プログラム) の基本である、“voice of the Newborn: 赤ちゃんの声”を理解することです。この NIDCAP は、赤ちゃんの声となる赤ちゃんの行動を観察して、ご家族、関わるスタッフと共有してケアに繋がります。この NIDCAP の日本のトレーナーになるため、今必須となる APIB トレーニングに励んでいます。APIB も、赤ちゃんの神経行動から発達状況や、環境への対応能力を見ていきます。まさに、早産児の成長過程の行動の答えを聞いていきます。今は、牛歩の如くの進歩ではありますが、赤ちゃんとの会話を楽しめるよう、そして待望のトレーニング

を受講できる環境に感謝し、これからも精進していきます。今回、このような機会を頂いた多くの関係者の皆様に、心より感謝致しますと共に、お礼を申し上げます。今後ともご支援と、この活動に注目をよろしくお願い致します。

(東京都立小児総合医療センター 看護師：大竹洋子)

● APIB は音や光刺激、話しかけやおもちゃの音などに、赤ちゃんがどのように反応するか、様々な原始反射の反応をどのように示すか、注意深く観察しながら、284項目をスコアリングしていきます。一度として同じ検査にはなりません。なぜなら赤ちゃん一人ひとり、個性があり、発達状況は異なり、反応が違うからです。その難しさと、赤ちゃんという存在の奥深さを実感できるトレーニングでした。今回の APIB トレーニングはリモートで行われ、世界でも初めての試みだったそうです。赤ちゃんの体の色の変化を観察することなど、実際に対面で受けるトレーニングのときよりも難しい部分もありました。しかし、それ以上に、海外の Joy 先生や gretchen 先生のご指導を受けて学習できる喜びがありました。さらに信頼性と自信を高められるように精進していきたいと思えます。

コロナ禍でも学びを止めることなく、歩み続ける機会を与えてくださった関係者の皆様に心より深く感謝いたします。

(東京都立墨東病院 助産師：内海加奈子)

● APIB では、赤ちゃんに様々な問いかけを行うにあたり、環境調整や検査者によるファシリテーション（支援）を行い、赤ちゃんのベストパフォーマンス（反応）を引き出すことが求められます。APIB を用いて、赤ちゃんの反応を見ることは、赤ちゃんの神経行動系の発達状況や環境への適応を知る手がかりとなり、赤ちゃん-ご家族-ケア提供者間のコミュニケーションツールと成り得ることを学んでいます。

赤ちゃんに信頼され、赤ちゃんがベストパフォーマンスを見せてくれるレベルに到達するまでは、まだまだ、技術的にもスコアリング的にも道半ばの段階です。しかしながら、赤ちゃんに問いかける時、どの赤ちゃんからもスペシャルなメッセージをもらいます。そして、問いかけを行った時の赤ちゃんの行動は、私の問いかけの技術的側面だけでなく、その時の私の心のありようや態度を写していると感じます。このことは、私に関わる全ての赤ちゃん、ご家族、スタッフも同様であり、私の周りの全ての人々の行動は、私が発した言葉や態度の鏡であり、私自身を振り返る機会をいただいていると感謝しています。

今回、オンラインの下、学びの場を提供いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(社会医療法人愛仁会 高槻病院 看護師：森口紀子)